

令和6年度第2回富山県公立大学法人評価委員会 議事録（概略版）

- 1 日時 令和6年8月6日（火） 13:30～14:30
- 2 場所 富山県立大学射水キャンパス 9階特別会議室
- 3 出席委員
  - ・林 幸秀〔(公財)ライフサイエンス振興財団理事長〕※委員長
  - ・水口 勝史〔(一社)富山県機電工業会会長、立山科学(株)代表取締役社長〕
  - ・酒井 康彦〔名古屋大学特任教授、名誉教授〕
  - ・藤重 佳代子〔(株)マーフィーシステムズ代表取締役社長〕
  - ・茶木 梨津子〔公認会計士、税理士〕
- 4 会議の概要
  - ・司会が開会を宣し、県経営管理部長から開会の挨拶
  - ・司会から林委員長に議事の進行を依頼し、以後の進行については委員長が行った。
  - ・委員長から（評価の対象である）法人が本日の委員会に最後まで同席することについて、委員の了承を得た。

議事 令和5年度の業務実績に関する評価（案）について

<事務局説明>

資料1に基づき、令和5年度の業務実績に関する評価（案）について説明。

（委員長）

本案についてのご意見をお願いしたい。

（委員）

令和6年の志願倍率については地震等の影響があって少し落ち込んだというところはあるものの、それ以外の部分では新学部の開設などもあり、業務実績としては非常によい状況ではないかと考える。評価については、案のとおりでよいのではないか。

(委員)

前回の委員会でも議論となった工学部教員による学生アルバイトに係る不適切な経理についても、適切に対応され、再発防止に取り組んでいるということ、評価については、案のとおりでよいかと思う。

評価案の文中に、「グローバル社会への対応など、これまで以上に、教育、研究、地域貢献活動を充実・強化」とあるが、グローバル社会への対応と地域社会に貢献する大学づくりの関係について、大学ではどのように考えているのか。

(法人)

大学のグローバル化と地域貢献の関係性でいえば、海外から富山県立大学に留学してもらって、かつ富山県に就職してもらおうということも、地域貢献の一つと考えている。また、富山県の産業は、地域内に閉じているのではなく、国際的に展開されている。そういった県内の企業に国際性を持った学生、人材に就職してもらい、グローバルに活躍してもらおうというのも、地域貢献かと考えている。

(委員)

評価については案のとおりでよいかと思う。

県立大学による地域貢献というものを考えたときに、学生が県内に就職することだけが地域貢献のあり方ではないと思うが、大学としては地域貢献についてどのように認識されているのか。

(法人)

卒業生が、県内に限らず、世界のさまざまなところで活躍し、富山県の名前を広めてもらうことも喜ばしいことである。一方で、県立大学は、先ずは地域企業や県民などの地域のステークホルダーに貢献するための大学であると考えている。地域の大学といっても、その地域に閉じ籠もる大学ではないと考えており、富山県発で地域、世界を変えていこうという人材を育成していきたい。

(委員)

県立大学のグローバル化ということを考えたときに、大学としては、留学生を増やすことと、国内の学生をグローバル人材として育成すること、どちらに比重を置いて取り組んでおられるのか。

(法人)

大学としては、後者に比重を置いて取り組んでいる。県立大学だけではなく、多くの日本の大学に共通して言えることだが、日本の大学では英語ではなく日本語でコミュニケーションを取らなくてはならないという言語の壁や、給与水準の違いがあり、海外の留学生に日本を留学先としてなかなか選んでいただけないという現状がある。

(委員)

県立大学の卒業生は、地域に貢献したいという意欲があり、県内企業で働く中で地域貢献できていることにやりがいを感じている方が多いと思う。

一方で県立大学の学生の中には、キャンパスライフに閉塞感やつまらなさを感じている学生もいると聞いている。明るいキャンパスづくりにどのように取り組まれているのか。

(法人)

学生に充実したキャンパスライフを送ってもらうということも重要と考えている。看護学部ができて、サークル活動などもより活発になってきている。コロナ禍で中断していた面もあるが、明るいキャンパスづくりに学内で検討して取り組んでいきたい。

(委員)

現在、企業では、女性の活躍というのを盛んに呼びかけているが、女性が学生時代に、積極的に活動できる環境にあったかが重要ではないかと考えている。学生のキャンパスライフに企業も影響を受けているので、女性が積極的に活動できるキャンパスづくりに取り組んでいただければと思う。

(委員)

情報工学部の開設やDX教育研究センターの設置、大学院看護学研究科博士課程開設準備など、先見性をもって取り組んでおられ、評価については概ね案のとおりでよいかと思うが、不適切な経理に関する事案は、コンプライアンスの問題であり、第7の「その他業務運営に関する目標」に課題として記載するのが適切ではないか。

(委員長)

私も、評価については概ね案のとおりでよいかと思う。

不適切な経理に関する事案については、第2の「研究に関する目標」の評価が、SではなくAに留まっている理由でもあるので、今回意見の出たことについては、第7の「その他業務運営に関する目標」にも課題として追記するということで進めたい。その他、細かな文言の修正を含めて、具体的な評価の記載については事務局と協議して、委員長である私に一任とさせていただきたい。

(各委員)

異議なし。

## 報告 大学院看護学研究科博士課程開設について

<事務局説明>

大学院看護学研究科博士課程開設に伴い今後予定している中期目標、中期計画の改定について説明。

<法人説明>

資料2などに基づき、大学院看護学研究科博士課程開設について説明。

(委員長)

何かご意見等はあるか。無いようであれば、中期目標、中期計画の改定に伴う次回の評価委員会については、書面開催とさせていただきたい。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

それでは、そのように決する。

では、本日の議事はこれで終了する。